

市民の会が開く シンポジウム

医療の良心を守る市民の会

<http://ryousin.web.fc2.com/>

ほんとうのことを知るのが、なぜ難しい？

患者と医療者が 手をつなぐためにすべきこと

テーマ：

「医療裁判と医療ADRについて考える」

第Ⅰ部：事故の実情を知る被害者遺族のおもい
～私たちはなぜ提訴したのか、しなかったのか～

○小室 義幸 氏 (杏林大学病院事故)

○北田 淳子 氏 (阪南中央病院事故)

第Ⅱ部：現場の実情を知る有識者の提言

○岡本 左和子 氏 (元ジョンス・ホプキンス病院
(米国) パイシエント・アドボケイト)

○五十嵐 裕美 氏 (弁護士)

○加部 一彦 氏 (医師、愛育病院新生児科部長)

○稲葉 一人 氏 (中京大学大学院教授)

第Ⅲ部：パネルディスカッション&質疑応答

○パネリスト

・岡本 左和子 氏 ・五十嵐 裕美 氏

・加部 一彦 氏 ・稲葉 一人 氏

・豊田 郁子 氏 (架け橋 代表)

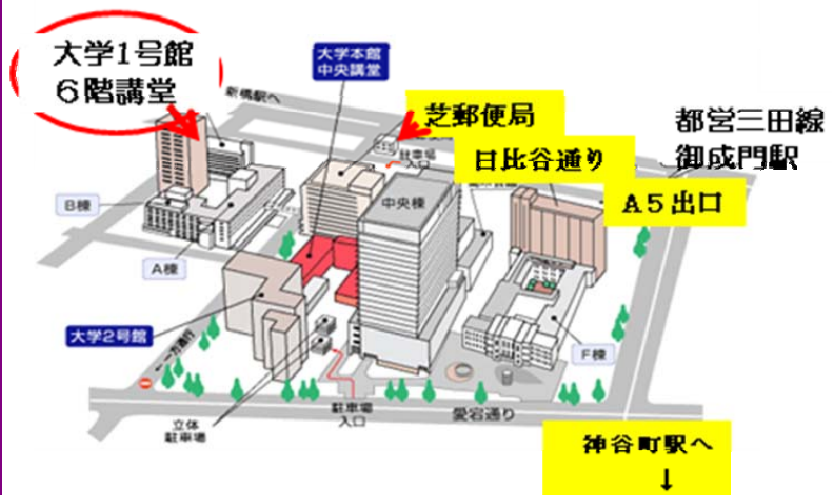
○コーディネーター 永井 裕之

日 時：平成21年10月24日(土) 14:00~17:30

会 場：慈恵医大 (西新橋キャンパス) 1号館6階講堂
(都営三田線 御成門 A5出口 約3分)

参加費：無料 (カンパをお願いします)

定 員：120名 (事前登録優先)



主催：

医療の良心を守る市民の会

(問い合わせ先&事前登録先)

E-mail: liaison_office@yahoo.co.jp

Fax: 047 (380) 9806

〒279-0012 浦安市入船3-59-101 永井方

後援：

特定非営利活動法人 患者のための医療ネット

患者の視点で医療安全を考える連絡協議会

架け橋～患者・家族との信頼関係をつなぐ対話研究会

愛する人が
なぜ死んだのか、
わからないの？

医療裁判には、
限界があるの？

患者に
本当のことが
言えなくなってしまうの？

このままでは
患者と医療者が
歩み寄れない？

患者のためを思って行動した良心的な医療従事者
を私たちは守り、物心両面で支えます

医療裁判と医療ADRについて考えるシンポジウム ～真実を語り合える環境作りに向けて～

日時:2009年10月24日(土) 午後14:00 ～ 17:30

場所:慈恵医大 (西新橋キャンパス)1号館6階講堂(都営三田線 御成門 A5出口 約3分)

主催:「医療の良心を守る市民の会」

共催:「患者の視点で医療安全を考える連絡協議会」

「架け橋～ 患者・家族との信頼関係をつなぐ対話研究会」

定員:120名(事前受付優先) 参加費:無料

<開催主旨>

患者として、または医療者として、医療事故の当事者になる可能性は誰にでもあります。しかし、医療裁判が大きく報道されるたびに、そこに様々な課題があることはうかがい知れても、被害に遭い、取り返しのつかない障害が残ってしまった患者や、命を落とした人の遺族の経験や思いを直接聞き、そこから学ぶ機会や仕組みはほとんどありません。

一方で、現状の医療事故後の対応や解決方法についても、そのような被害者遺族の思いや関わった医療者の思いを超えた様々な提案が出され、混乱してしまっている感があります。

被害者遺族の声をよく聞けば、医療事故を裁判で解決をすることを最初から望んでいた人はほとんどいません。これまでの日本では、事故後の不誠実な対応によって、「泣き寝入りか、裁判か」というところまで追い込まれた被害者遺族が、それでも、「真実を知りたい、真実を証明したい」と覚悟を決めて提起した裁判が少なくないのです。

また、被害者遺族の多くは、「まず逃げないで事故の事実を受け止め、真実の情報を共有する努力をし、原因を分析し、再発防止対策をとることを一緒に考えるシステムを作り、それが実行されていく」という過程で慰められ、心の整理や納得ができていくといいます。そして、この実行過程は当事者になってしまった多くの医療者をも慰めることになるといいます。

このような被害者遺族の願いを反映できる環境作りについて考えるシンポジウムです。

<シンポジウム内容>

* 第Ⅰ部:事故の実情を知る被害者遺族のおもい (約30分)

～私たちはなぜ提訴したのか、しなかったのか～

○小室義幸さん(杏林大学病院事故) ○北田淳子さん(阪南中央病院事故)

* 第Ⅱ部:現場の実情を知る有識者の提言 (約80分)

○岡本左和子さん(元ジョーズ・ホプキンス病院(米国)ペイシエント・アドボケイト)

○五十嵐裕美さん(弁護士、医療問題弁護団副幹事長)

○加部一彦さん(医師、愛育病院新生児科部長、多くの医療裁判の医学鑑定に関わる)

○稲葉一人さん(元判事、中京大学大学院教授、医療を含む紛争解決ADRの専門家)

* 第Ⅲ部:質疑応答とパネルディスカッション(約70分)

第Ⅱ部で提言をされた4名の他に、医療被害者遺族で、新葛飾病院(東京)の院内相談員として患者支援活動をする豊田郁子さんをパネラーに加え、会場の参加者の皆さんと共に質疑応答や意見交換をしながら議論を深めていきます。(コーディネーター:永井裕之)